

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第1講 イン트로ダクション(10/1)

田中重人(東北大学文学部准教授)

### 1 『講義概要』記載情報 + $\alpha$

- ◆ 到達目標: 知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。
- ◆ 授業内容・目的・方法: 「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。
  - 10月 書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解。
  - 11月 情報の整理とアイデアの創出。
  - 12-1月 アイデアをかたちにする(レポート作成、発表、討論)。
- ◇ 教科書: 佐藤望ほか(2012)『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(第2版)慶應義塾大学出版会。(そのほか、授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むことになります)
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題と宿題(50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問(50%: 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)
- ◇ 備考: 授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります(その週は休講とし、受講者の都合にあわせて日時を設定)。

### 2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 卒業論文を書くまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

### 3 授業予定(おおよその計画)

- (1) イン트로ダクション(10/1)
- (2) 自己紹介と卒論紹介(10/8,15)
- (3) 書店で本を探す(10/22前後)
- (4) 本の紹介と議論(10/29, 11/5)
- (5) 問いの設定について面談(個人またはグループ別: 11/11-の週)
- (6) 情報の整理とアイデアの創出(11/19,26)
- (7) 他者との対話(12/3,10)
- (8) レポート執筆について面談(個人またはグループ別: 12月中旬)
- (9) レポート執筆 / グループで連絡をとって報告打ち合わせ(冬休み)
- (10) グループで研究紹介と質疑応答(1/7,14)
- (11) 口頭試問(個人別またはグループ別: 1月下旬)

※ 受講者数によって、授業の進行が大幅に変わることがあります

## 4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示や管理等前の掲示板のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/school> (RSS フィード利用可) に出る場合があります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

## 5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

## 6 レポートのフォーマット

- 問い
  - その背後にある大きな問い
  - 問いの学問的背景
  - 問いの社会的意義
- 答え
  - 必要な予備知識と前提
  - 答えの根拠
  - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

## 7 今日の課題

卒業論文または修士論文から自分の興味に合ったものを一つ選ぶ

- 配布した一覧表を参考にすること
- 日本語教育学研究室の卒業論文・修士論文は貸出禁止 (閲覧・コピーは可)

## 8 宿題

自分の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

発表は2回にわたって行う予定であるが、資料は全員作ってこよう。

論文を読むにあたっては、教科書 pp. 84-90 を参考にすること。

年 月 日

# 現代日本論基礎講読 (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (文学部日本語教育以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

週間スケジュール (ダメなところに ×):

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第2講 卒業論文・修士論文について発表 (10/8)

作成：田中重人 (准教授)

### 1 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

### 2 次回までの宿題

次回授業時に、次のものを持ってくること

- 学術的な内容を含む本1冊
- その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (2枚作成して、1枚は提出、1枚は授業で使用)

## 第3講 卒業論文・修士論文について発表 (2) (10/15)

作成：田中重人 (准教授)

### 1 論文のまとめかたについて

「問い」と「答え」はできるかぎり簡潔に

- 論文のどこからとるか?
- 複数ある場合も

「問い」を理解するのに必要な予備知識と、「答え」を正当化するための根拠は、すべて記述すると膨大になる

- その分野では普通の知識とそうでないもの
- 発表の際は、重要性に応じてとりあげる

批判と発展の可能性について

- 方法・技術についての批判
- 論理に基づいた批判
- 他の研究との比較
- 対象の拡大
- 別の問いへの発展

### 2 日本語教育学専修の卒業論文について補足

#### 2.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマは様々。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境 (ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの (ファッションから家族問題まで)。

#### 2.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析 (日本語教科書を含む) が多い。そのほかに2次データ分析 (社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

## 2.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会 (第1回)

7月: 進捗状況の報告会 (4年生と教員の個別面談; 年によって開催)

10月: 題目提出、中間発表会 (第2回)

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

## 3 本のみつけかた

現在の学問の分野は「○○学」「○○論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

**避けたほうがよいもの:** 論文集、資料集、事典、講演録

## 4 書誌情報

文献の同定に必要な情報を「書誌情報」(bibliographic information) という。本の場合、基本的な書誌情報はつぎの4つ。

- 著者 (あるいは編者・訳者など)
- 出版年
- 標題
- 出版社

状況によって、これに「版」や「シリーズ名」「標準番号」などが加わることもある。

日本で出版された本の場合、いちばん最後 (広告をのぞく) に「奥付」というページがあって、そこに書誌情報が載っていることが多い。海外での出版の場合は、たいていは、いちばん前 (タイトルページの裏面) に同様の情報がある。

## 5 次回までの宿題

次回授業時に、次のものを持ってくること

- 学術的な内容を含む本1冊
- その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (2枚作成して、1枚は提出、1枚は授業で使用)

## 第4講 本を読む(1) (10/22)

作成: 田中重人 (准教授)

### 1 本を読むモード

教科書 pp. 83-90

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

### 2 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

### 3 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- 速読カード (教科書 p. 104) などへの記録と保存

### 4 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

### 5 次回予定

前半は、通常通り授業。後半は、書店 (東北大学大学生協文系書籍店) で本を探す実習をおこないます。どんな本を読みたいか、考えておくこと。

#### 当日の流れ:

[8:50] 通常の教室で授業 (書誌情報、本の探し方などについて)

[9:50] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[10:20] 授業終了

その次の授業時 (11/5) に、次のものを持ってくること

- 書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモ → 提出
- できれば現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 目次と奥付のコピー (今回と同様)

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第5講 本を読む (2): キーワードとパラグラフ (10/29)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

### 1 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

### 2 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

### 3 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

## 4 書店実習

東北大学大学生協文系書籍店で本を探す実習

[9:50] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[10:20] 授業終了

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

## 5 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもった本の書誌情報のメモ
- できれば現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 現物入手できた場合、その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (前と同じ方式: A3などの大きな用紙に、余白をじゅうぶんにとってコピーする) 2部

今日の実習は20分間しかないので、各自で空き時間に探しておくこと。

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、つぎのURLで検索できる。

[フルブラウザ用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>

[モバイル機器用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/iecats/>

ただし、所蔵場所によっては、すぐには入手できないこともある。

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第6講 本を読む(3): 精読(11/5)

田中重人(東北大学文学部准教授)

### 1 今日の課題

教科書 p. 86, 103-105 を参考にして、本の中の2箇所以上のセクションを精読する

- 段落が4つ以上あるセクションを選ぶこと
- 「キーセンテンス」はどれかを考えること
- 目次コピーの上にそのセクションの構成を位置づけて考えてみる

### 2 来週の予定

来週の授業はお休みです。そのかわり、11/11-15のあいだに個別面談をおこないます。時間帯は今日決めます。ひとりあたり30分の予定です。

面談の内容は、この授業の期末レポートについてです。レポートで何をとりあげたいか、考えておいてください。資料がなにかあれば、それも持ってくることを。

### 3 再来週の予定

再来週は、各自の考えている内容についての「マインドマップ」をつくります。色ペンを(できるだけ多種)もってくることを。

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第7講 情報の整理とアイデアの創出 (11/19)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

### 1 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用 (日経 BP 社, pp. 24-29)
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 日本語教育学のページ <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html> や図書館の冊子『情報探索の基礎知識』[http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat\\_id=3](http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=3) を参照

### 2 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイデアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい (月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

### 3 類似の手法

- マインドマップと同様のことは、PC 上でもできる
- カードの利用
- 問いと答えのリスト
- 文章の構成をメモにする

### 4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

### 5 文献

- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ “かき方” 超入門』アスキー・メディアワークス.
- 日経 BP 社 (2010) 『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経 BP 社.

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第8講 アイディアの交換 (11/26)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 意見・アイデアを出し合う

### 1 意見の交換

【課題1】各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- 今の段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

### 2 KJ法

【課題2】教科書 pp. 110-116 を参考にして、「KJ法」によるアイデア創出を試みる

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

### 3 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、配布資料 (大島ほか, 2005, p. 37) を参考にして、「問いと答え」の表を作成。次回授業時に2部持ってくる(1部を提出、1部は授業で使用。)

### 4 文献

- 大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第9講 木を見て森を見る (12/3)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

### 1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

### 2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性：
- 測定の信頼性：

- 結果の再現性：
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか
- 直観と内省

#### 推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

#### 価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

### 3 宿題

レポートに向けて、現在の時点での構想を作成してくる。これまでに収集した資料の一覧をつけること。

次回授業時に2部持ってくる(1部を提出、1部は授業で使用。)

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

## 第10講 プロジェクトとしての研究 (12/10)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 研究を完成させるのに必要なこと

### 1 文献・資料の探しかた

- 書店で探す (第5講)
- 図書館 (書庫利用オリエンテーションを受けておくとよい)
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>
- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>
- そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:
  - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
  - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
  - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>
- 芋づる式
- 人に聞く

### 2 論文講読と口頭発表

論文と口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の論文を積極的に読み、論文の構造や文体や語彙に慣れておくこと。口頭発表については、大学内外での学会・研究会・ワークショップなどに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>

### 3 プロジェクトとしての研究

**Project:** 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)が必要になる。

### 4 課題

この授業の結果報告(1/7)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

### 5 今後の予定

- 来週は休講です。その代わりに、レポートに向けての個別面談を行います(各自の都合に合わせて日時を個別設定)
- 1/7, 14に各自のレポートに向けての発表をおこないます。発表者はそれぞれ3人と2人となりますが、1/7に全員資料を1部提出してください。発表の持ち時間は5分、そのあとコメントータのコメントを3分、そのあと質疑応答に20分程度とります。発表の割り振りは当日決めます。
- 発表者とコメントータの組み合わせは、事前に決めて通知します。

### 文献

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店。